

企業と連携した実践教育に加え、人間力育成にも注力。 多様化する学生一人ひとりに 配慮した新たな取組も

学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ
理事長

麻生 健

大

学進学率の上昇や少子化などの影響も受け、厳しい環境

下にあることは事実ですが、専門学校は今なお、社会といち早く繋がる進路の有力な選択肢です。企業や地域と連携した実践教育によって専門スキルを磨き、学生一人ひとりの、好きや得意を伸ばしつつ、社会人としての基礎を築く。そのため福岡県下に12校を展開する麻生塾では、協働プロジェクトや連携授業、インターンシップなど企業との関係を強化しているほか、九州各地の自治体とU-

Jターン協定を結ぶなど、学生と地域を繋ぐ取組を拡大しています。

即戦力たる専門性を磨く一方、人格や人間性の育成にも力を注いできました。全学生が履修するGCB（グローバルシティズン・ベシック）もその一つ。2011年から続く人間力育成プログラムです。思いやりや感謝の心をベースに自立し、他者と協力しながらリーダーシップを発揮して社会に貢献する。こうした教育の結果、志を軸に、キャリアを切り拓く卒業生が多く生まれました。

例えば、メーカーの総合職を経て、かねて興味のあった美容を学び直し、複数のネイルサロンを経営している情報ビジネス科出身の卒業生。また、大手旅行会社に入社後、独立して旅行代理店を経営しているトラベル科出身の卒業生。大手IT企業に就職後、大卒ばかりの同期のなか最速でマネージャーに昇進した情報工学科の卒業生もいます。

一方で、留学生や学び直し層などと学生が多様化し、これまでの教育体制では対応しきれない状況も生じています。例えば、通学に不安を感じる学生が、個々の状況に応じて学びがとができる、もう一つの学びの環境として「フレックスクラス」を設置。再

び通常の教室で学べるよう、専門のチューターやカウンセラーがサポートします。また、将来何がしたいか明確でない学生向けにキャリアデザイン科を設置。入学後、職業理解を深め、学びたい分野が見つけられるようベータランの専任教員が対応します。学科転科制度も含め、学びや進路のミスマッチに柔軟に対応する仕組みを整備しているわけです。

教育DXによる教育の質向上も図っています。学生の特性は一人ひとり異なり、成績だけで一律に区分することはできません。そこで、教職員間で個々の学生の情報を共有するプラットフォームが必要であり、LMS（学習管理システム）やAIを駆使し、一人ひとりの履修状況や教育成果を可視化、支援する体制も整えています。

生成AIを活用した業務の効率化も急務です。将来の週休3日制も視野に、再来年度の目標は、教職員の年間休日130日を達成すること。

多様な働き方が求められる時代です。教職員一人ひとりが自分らしく働ける環境を整えることで、結果として学生へのサポートも一層充実していくと考えています。学校がサステナブルな存在であるためにも働きやすい職場をつくるのが私の役目です。

理事長プロフィール あそう・たけし ● 1981年生まれ。ブリヂストンスポーツ株式会社勤務を経て、2010年麻生塾所長および麻生介護サービス株式会社取締役就任。2014年現職の学校法人麻生塾理事長に就任。2017年麻生プロジェクトスタジオQを設立し取締役就任。2025年ZEN大学の評議員にも就任。

学校法人プロフィール 1939年麻生塾創立。情報、観光、語学、公務員、医療、福祉、デザイン、ゲーム、美容、建築、自動車など福岡県下に12校を擁する。在籍学生約6500人の九州最大級の専門学校グループ。2017年には、株式会社カラー、株式会社ワンゴと3法人共同でアニメCGスタジオ「プロジェクトスタジオQ」を福岡に設立するなど、企業連携にも注力。また、海外でも事業を展開しており、インドネシアにて2014年、BINUS 大学と共同で「Binus ASO School of Engineering」を設立、2024年には「日本語教育機関 YOKA」を設立。延べ1000人以上の人材育成を行う。